

運用報告書（全体版）

スーパーファンド・ジャパン サブファンド・レッド

ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て、米ドル建て）

作成対象期間（第13期）：自 2021年1月1日 至 2021年12月31日

～ 受益者の皆様へ ～

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、当サブファンドの第13期の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ファンド形態	ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て、米ドル建て）	
信託期間	信託設定日は2009年6月5日、償還日は設定日から150年後	
運用方針	マスターファンドの投資顧問会社が随時選定するテクニカル分析ソフトウェアを使用したトレーディング・シグナルに基づいて運用されます。当サブファンドのマスターファンドは、投資機会及び最新の取引戦略を利用することを目的とするため、将来の投資の特性に関して事前決定された展望を持たず、一切の制限も受けません。マスターファンド投資顧問会社は、マスターファンドのサブファンドが、上場先物取引及び各種店頭デリバティブ（外国為替取引を含みます。）において過度の危険を冒さずにレバレッジ効果により高い収益が見込めると判断したときに、レバレッジを利用することができます。	
主要投資対象	当サブファンド	スーパーファンド・レッドワンSPCのサブファンドであるスーパーファンド・レッドワン分別ポートフォリオ I の利益参加シェア
	マスターファンド	世界各国の取引所に上場されている様々な先物取引（株式指数、債券、通貨、コモディティ）への分散投資及び、これに加えて、ゴールドクラスは金先物、シルバークラスは銀先物
組入制限	当サブファンドの資産は管理会社により運用され、管理会社は当サブファンドの資産の最大100%をスーパーファンド・レッドワンSPC（マスターファンド）のサブファンドであるスーパーファンド・レッドワン分別ポートフォリオ I の利益参加シェアに投資します。	
分配方針	現段階では分配を行う予定はありません。但し、管理会社はその裁量で分配を決定する権利を留保しています。	

（注1）本書中における米ドル及びユーロの円貨換算は、別段の表示のない限り、2022年5月31日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売相場場の仲値（1米ドル=128.21円、1ユーロ=137.76円）によります。

（注2）円貨への換算は、本書において該当する各数値につき、所定の換算率で単純計算の上、必要に応じて四捨五入しています。したがって、本書中の同一情報につき異なった数値で円貨表示がなされている場合があります。

【管理会社】

スーパーファンド・ジャパン・
トレーディング（ケイマン）リミテッド

【代行協会員】

スーパーファンド・ジャパン株式会社

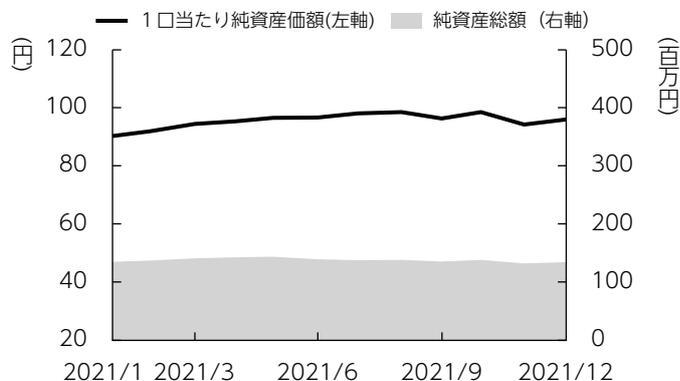
目次

1.	資産の運用の経過	P. 1
2.	運用状況の推移	P. 7
3.	ファンドの経理状況	P. 9
4.	費用の明細	P. 43
5.	当期末における純資産額計算書	P. 43
6.	投資の対象とする有価証券及びその他の資産	P. 44
7.	投資の対象とする不動産、金銭債権及び手形	P. 44
8.	お知らせ	P. 44

1. 資産の運用の経過

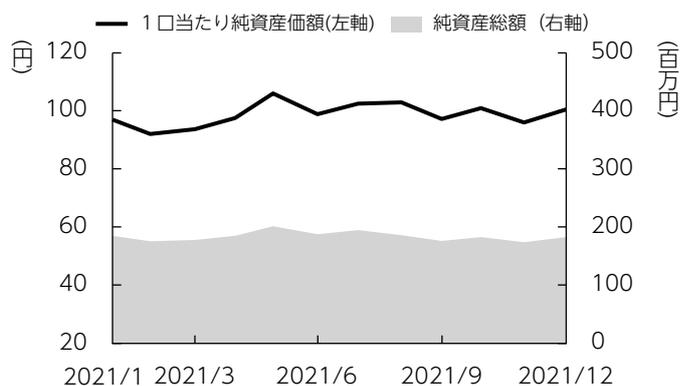
■当期の1口当たり純資産価額等の推移について（2021年1月1日～2021年12月31日）

円・クラス



第12期末の 1口当たり純資産価額	89.3884円
第13期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0円)	95.9686円
騰落率	+7.36%

ゴールド円・クラス



第12期末の 1口当たり純資産価額	98.2600円
第13期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0円)	100.5069円
騰落率	+2.29%

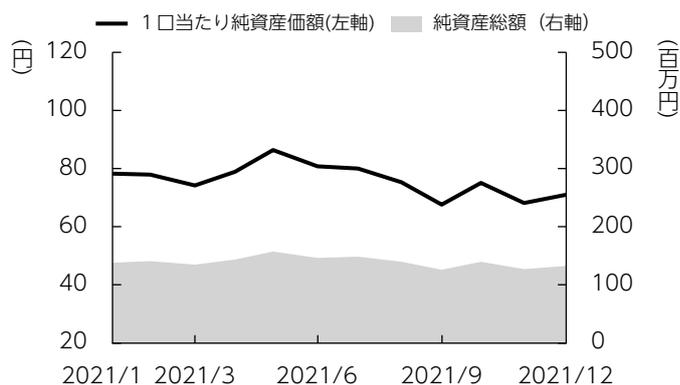
(注1) 当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 1口当たり純資産価額は、第12期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。

(注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

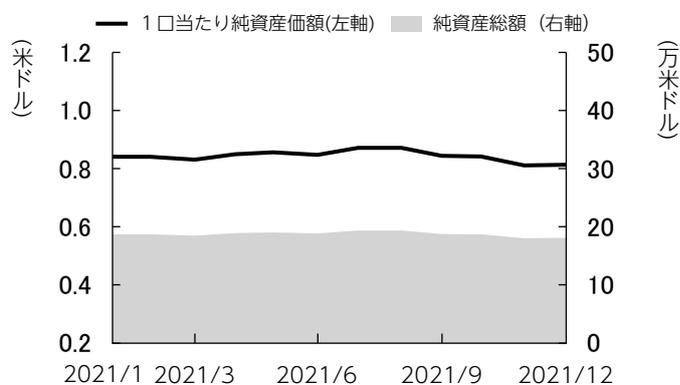
(注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

シルバー円・クラス



第12期末の 1口当たり純資産価額	75.8240円
第13期末の 1口当たり純資産価額	70.9938円 (分配金0円)
騰落率	-6.37%

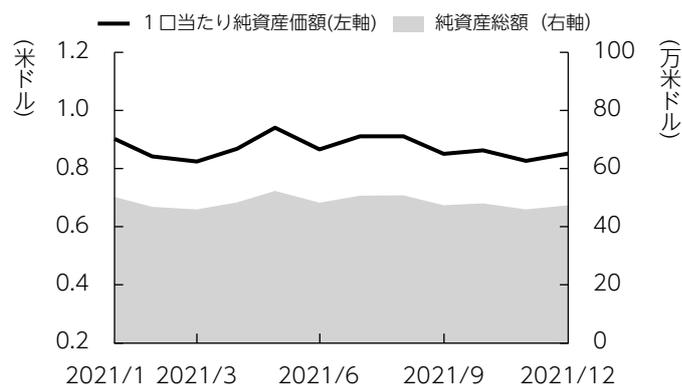
米ドル・クラス



第12期末の 1口当たり純資産価額	0.8438米ドル
第13期末の 1口当たり純資産価額	0.8128米ドル (分配金0米ドル)
騰落率	-3.67%

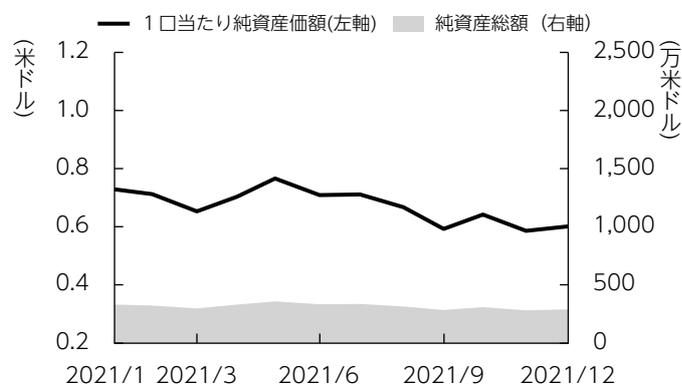
- (注1) 当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。
(注2) 1口当たり純資産価額は、第12期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。
(注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
(注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

ゴールド米ドル・クラス



第12期末の 1口当たり純資産価額	0.9275米ドル
第13期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0米ドル)	0.8512米ドル
騰落率	-8.23%

シルバー米ドル・クラス



第12期末の 1口当たり純資産価額	0.7157米ドル
第13期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0米ドル)	0.6012米ドル
騰落率	-16.00%

- (注1) 当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。
 (注2) 1口当たり純資産価額は、第12期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。
 (注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

■ 1口当たり純資産価額の主な変動要因

【円・クラス、米ドル・クラス】

実質的に投資している金融先物市場・商品先物市場における、当サブファンドが採用する複数のテクニカル分析ソフトウェアによるトレーディングシグナルにより運用されます。順張り、逆張り、予測モデルなどのシグナルにより短期の取引を繰り返し、多くの投資を行います。それらの集計により、キャピタルゲインを確保します。一方、上昇又は下降トレンドに追随した後、市場価格のトレンドが変換することによりキャピタルロスが生まれます。さらに、円建てクラスは、為替が円安に変動することでキャピタルゲインが生まれ、円高に変動することでキャピタルロスが生まれます。

【ゴールド円・クラス、ゴールド米ドル・クラス】

実質的に投資している金融先物市場・商品先物市場における、当サブファンドが採用する複数のテクニカル分析ソフトウェアによるトレーディングシグナルにより運用されます。順張り、逆張り、予測モデルなどのシグナルにより短期の取引を繰り返し、多くの投資を行います。それらの集計により、キャピタルゲインを確保します。加えて、金価格の上昇によりキャピタルゲインが生まれ、下落によりキャピタルロスが生まれます。さらに、円建てクラスは、為替が円安に変動することでキャピタルゲインが生まれ、円高に変動することでキャピタルロスが生まれます。

【シルバー円・クラス、シルバー米ドル・クラス】

実質的に投資している金融先物市場・商品先物市場における、当サブファンドが採用する複数のテクニカル分析ソフトウェアによるトレーディングシグナルにより運用されます。順張り、逆張り、予測モデルなどのシグナルにより短期の取引を繰り返し、多くの投資を行います。それらの集計により、キャピタルゲインを確保します。加えて、銀価格の上昇によりキャピタルゲインが生まれ、下落によりキャピタルロスが生まれます。さらに、円建てクラスは、為替が円安に変動することでキャピタルゲインが生まれ、円高に変動することでキャピタルロスが生まれます。

■投資環境について

2021年が明けると、世界はCOVID-19感染の大流行に見舞われました。米国では新規感染者数が前年の夏のピーク時の4倍に拡大したことで、多くの病院が収容人数に達し、COVID-19による死亡者は1日あたり4,000人以上にまで加速したのです。しかしながら、世界市場が楽観視する理由がありました。臨床試験で非常に高い有効性を示した最初のCOVID-19ワクチンが順次出荷されつつあったことで、世界市場はパンデミック初期の底値から急回復したのです。世界の金融政策は非常に緩和的で、金利は低く、2020年からの財政刺激策によって消費者の貯蓄が強化され、さらなる刺激策が期待されました。

2021年の世界株式は、米国と欧州の株価指数が堅調に推移し、COVID-19に対する免疫力が高まっていることが証明されたため、力強いパフォーマンスを示しました。インフレ率が数十年ぶりの高水準に上昇したにもかかわらず、経済成長の力強い回復と緩和的な財政・金融政策の継続が、株式のパフォーマンスを支えました。米国では、S&P 500種指数が+26.89%、ダウ平均が+18.73%のリターンを記録しました。有効なワクチンに加え、好調な企業収益や消費者需要の増加など、その他多くの好材料が市場を支えました。欧州では、CAC40が+28.85%、ユーロストックスが+20.77%など、主要指数が上昇しました。ロックダウン規制の緩和や欧州中央銀行（ECB）の支援継続が欧州全体の支援材料となりました。アジアでは、日本の株式パフォーマンスは欧米ほど強くはありませんでしたが、日経平均株価とTOPIXはそれぞれ+5%、+8%近い上昇を見せました。一方、中国はゼロコロナ対策により、ハンセンが-13.84%、MSCI中国指数が-22.37%の損失を出しました。米国が国内証券取引所に上場する中国系証券に対する規制を強化し、北京では自国産業の取締りを強化したため、中国株には圧力がかかりました。

景気刺激策と成長予測を背景に世界の国債利回りが年間を通じて上昇したため、債券市場の利益は株式市場よりも緩やかなものとなりました。第2四半期に入ると、米国では年間インフレ率が過去10年以上なかった目標水準を大幅に上回り、FRBが予想より早い利上げを示唆したため、利回りは若干後退しました。英国では、第3四半期の金融引き締めへの期待からEU国債の利回りが上昇し、米国債の利回りは急速な景気回復が緩やかになりつつあることから先細りとなりました。年末になると、国債市場は、高止まりするインフレ、タカ派的な中央銀行の政策転換、オミクロン株の変種出現などの影響を受けました。長期国債の利回りはほぼ横ばいでしたが、FRBがインフレを「一過性」と呼ぶのをやめる可能性を示唆したため、短期国債は上昇に転じました。

コモディティー市場では、世界経済の回復が需要を押し上げ、地政学的な要因が供給を制限し、価格上昇に拍車をかけ、「エネルギー危機」の懸念を引き起こしたため、2021年にエネルギーコストが急騰しました。金属、非エネルギー商品、農業も同様に2021年に上昇を記録しました。工業用金属は生産需要の増加により上昇しましたが、銀や金などの貴金属はマイナスのリターンを記録しました。これは、パンデミックによる経済状況の改善により、主要な安全資産としての投資家の需要が減少したこと起因しています。農産物市場では、気象災害の規模と長期化に直面し、気候変動に関するCOP26が英国で開催されたことを背景に大きな枠組みが作られ、世界的な価格高騰に繋がりました。

2021年に明らかになったように、様々な中央銀行による金融政策の決定は、主要通貨間の大きな動きを説明するのに大いに役立ちます。米ドルは、米国経済の改善とインフレの持続に支えられ、早ければ2022年3月に利上げを開始すると予想されています。FRBのタカ派的転換を受け、米ドルは2015年以来最もパフォーマンスの高い年となりました。2021年に主要通貨の中で対ドルで最もパフォーマンスが良かったのはカナダドルで、カナダ銀行が早ければ2022年1月に金融引き締めを開始すると予想に助けられました。主要通貨の中で対ドルで最もパフォーマンスが悪かったのは日本円で、中央銀行が景気刺激策を解除するには程遠いようで、年間を通して約11%下落しました。ドルインデックスで最も大きなウェイトを占めるユーロは、ECBが超ハブ的な金融政策設定を維持していることから、+6%強の下落となりました。

■ポートフォリオについて

<当サブファンド>

当サブファンドは、マスターファンドへの投資によって当該マスターファンドと同一の投資目的を追求しました。結果、マスターファンドへの投資比率は、概ね95%以上を維持しました。

<マスターファンド>

マスターファンドは、主に世界各国の取引所に上場されている様々な先物取引等に投資しました。複数の短期のトレーディングシステムによるマネージドフューチャーズにより、下記4つのセクターに分散投資しました。

【株式指数】 【債券】 【通貨】 【コモディティ】

当ファンドが採用するマネージドフューチャーズ戦略は、約60の様々な指数のトレンドを分析し短期トレーディングを行う戦略です。2021年においては、一年を通して前年からの一進一退の状態が継続しました。株式市場セクターでは、多くの月でプラスの収益を上げることができましたが、債券市場セクターと為替市場セクターではマイナスの月が多く、特に債券市場セクターは、マイナスのパフォーマンスの大きな要因となりました。年後半では債券市場にて収益を確保したものの、株式市場セクターがマイナス要因となり、パフォーマンスを落とす結果となりました。

年初1,900米ドル台で始まった金価格は、2月には1,700米ドル割れまで下落しましたが、6月には1,900米ドル台までリバウンドし、その後は1,800米ドルを挟んだ値動きとなり、年末は1,820米ドル前後となりました。銀価格は年前半に30米ドル近辺までの推移をしておりましたが、夏場以降は20米ドル台前半での横ばいの推移となりました。

■今後の運用方針

当サブファンドの今後の運用方針については、これまでの投資方針が引き続き採用され、マスターファンドと同一の投資目的を追求する予定です。

■分配金について

当サブファンドには分配金はありません。

2. 運用状況の推移

当サブファンドは2018年1月1日に運用を開始したため、当該計算期間以前の計算期間に係る純資産総額、1口当たり純資産価額、及び収益分配金に関する情報は存在しません。

当サブファンドの収益率は以下のとおりです。

年度	収益率					
	円・クラス	米ドル・クラス	ゴールド円・クラス	ゴールド米ドル・クラス	シルバー円・クラス	シルバー米ドル・クラス
自2018年 1月1日 至2018年 12月31日	-12.89%	-10.51%	-17.03%	-14.77%	-23.81%	-21.73%
自2019年 1月1日 至2019年 12月31日	+11.52%	+12.62%	+30.11%	+31.41%	+24.66%	+25.91%
自2020年 1月1日 至2020年 12月31日	-12.90%	-8.38%	+3.07%	+8.42%	+21.21%	+27.51%
自2021年 1月1日 至2021年 12月31日	+7.36%	-3.67%	+2.29%	-8.23%	-6.37%	-16.00%

当サブファンドの純資産総額及び1口当たり純資産価額の推移は以下のとおりです。

円・クラス		純資産総額 (円)	1口当たりの純資産価額 (円)
	2018年12月	186,320,367	92.0331
	2019年12月	183,583,741	102.6311
	2020年12月	133,486,916	89.3884
	2021年12月	134,268,325	95.9686
米ドル・クラス		純資産総額 (米ドル)	1口当たりの純資産価額 (米ドル)
	2018年12月	181,711.07	0.8178
	2019年12月	204,641.60	0.9210
	2020年12月	187,488.14	0.8438
	2021年12月	180,600.10	0.8128
ゴールド円・クラス		純資産総額 (円)	1口当たりの純資産価額 (円)
	2018年12月	163,155,964	73.2756
	2019年12月	191,078,019	95.3368
	2020年12月	190,859,484	98.2600
	2021年12月	182,458,076	100.5069
ゴールド米ドル・ クラス		純資産総額 (米ドル)	1口当たりの純資産価額 (米ドル)
	2018年12月	362,379.15	0.6510
	2019年12月	476,214.08	0.8555
	2020年12月	516,292.88	0.9275
	2021年12月	473,820.48	0.8512
シルバー円・クラス		純資産総額 (円)	1口当たりの純資産価額 (円)
	2018年12月	114,405,818	50.1816
	2019年12月	109,588,466	62.5566
	2020年12月	131,703,402	75.8240
	2021年12月	132,559,185	70.9938
シルバー米ドル・ クラス		純資産総額 (米ドル)	1口当たりの純資産価額 (米ドル)
	2018年12月	4,574,903.92	0.4458
	2019年12月	2,542,985.37	0.5613
	2020年12月	3,242,499.10	0.7157
	2021年12月	2,884,695.95	0.6012

(注1) 1口当たりの純資産価額は、小数点以下第4位まで計算されています。

(注2) 過去の業績は、将来の業績を示し保証するものではありません。

2018年12月31日、2019年12月31日、2020年12月31日及び2021年12月31日に終了した計算期間において、確定した分配金はありません。

3. ファンドの経理状況

当サブファンドが含まれている「スーパーファンド・ジャパン」の経理状況は以下の通りです。なお、マスターファンド及びアンダーライング・マスターファンドの財務諸表については、EDINET（金融庁の開示書類閲覧ホームページ <http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>）に開示された有価証券報告書等（ファンドコード「G07555」）をご覧ください。

スーパーファンド・ジャパン-サブファンド・グリーン（旧称：スーパーファンド・グリーンBジャパン）

貸借対照表

2021年12月31日現在

（単位：日本円）

	注記	
資産		
ファンドへの投資（公正価値） （原価：1,822,778,850円）	2(b), 3, 11	2,153,284,748
ファンドへの投資に関する未収金		7,435,570
現金		30,640,116
外貨建て現金（原価：9,479,945円）		1,274,456
その他の資産		2,192,634,890
負債		
前受申込金		4,700,000
投資有価証券の取得に係る支出		17,500,000
未払買戻金		13,585,646
外貨建の銀行当座貸越 （原価：1,457,487円）		53
未払金及び未払費用	5, 8, 10	3,884,009
		39,669,708
純資産		2,152,965,182

	米ドル	円
ゴールド円クラス受益証券 1口当たり純資産： 発行済9,269,983口に基づく (2021年12月31日現在におけるゴールド円クラスの株式の価値合計：6,227.70オンス(金)) (2021年12月31日現在の金価格：209,448.03円)	—	140.71
	0.001オンス(金)	
円クラス受益証券 1口当たり純資産： 発行済7,793,466口に基づく(単位：日本円)	—	80.12
ゴールド米ドル・クラス受益証券 1口当たり純資産： 発行済199,421口に基づく (2021年12月31日現在におけるゴールド米ドル・クラスの株式の価値合計：141.34オンス(金)) (2021年12月31日現在の金価格：1,820.10米ドル)	1.29	165.39
	0.001オンス(金)	
米ドル・クラス受益証券 1口当たり純資産： 発行済1,751,688口に基づく(単位：米ドル)	0.97	124.36

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパン-サブファンド・グリーン（旧称：スーパーファンド・グリーンBジャパン）

投資明細書

2021年12月31日現在

（単位：日本円）

銘柄（純資産における％）	償還条件	株式数	原価	公正価値
ファンドへの投資（公正価値）（100.02％）				
マネージドフューチャーズ				
スーパーファンド・グリーン・ゴールド SPC B：クラスBジャパン（円）及び クラスBジャパン（米ドル） （61.97％）	週次	918,733.97	1,135,583,426	1,334,145,616
スーパーファンド・グリーン SPC B：クラスBジャパン（円） （38.05％）	週次	746,451.07	687,195,424	819,139,132
ファンドへの合計投資額（公正価値） （99.80％）		円	<u>1,822,778,850</u>	<u>2,153,284,748</u>

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパン-サブファンド・グリーン（旧称：スーパーファンド・グリーンBジャパン）

損益計算書

2021年12月31日に終了した年度

（単位：日本円）

	注記	
収益		
その他の収益		—
		—
費用		
受託会社報酬	9	1,209,827
代行協会員報酬	8	2,202,729
事務管理報酬	10	1,359,803
専門家報酬		2,679,556
管理報酬	5	2,202,582
その他の費用		6,978,946
		16,633,443
正味投資損失		(16,633,443)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動		
投資及び外貨に係る正味実現利益		118,094,924
投資及び外貨に係る未実現利益の変動		235,103,716
		353,198,640
営業活動から生じた純資産の正味増加額		336,565,197

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパン-サブファンド・グリーン（旧称：スーパーファンド・グリーンBジャパン）

純資産変動計算書

2021年12月31日に終了した年度

（単位：日本円）

営業活動

正味投資損失	(16,633,443)
投資及び外貨に係る正味実現利益	118,094,924
投資及び外貨に係る未実現利益の変動	235,103,716
	<hr/>
	336,565,197

資本取引

ゴールド円クラス受益証券の発行	394,714,674
円クラス受益証券の発行	72,635,391
ゴールド米ドル・クラス受益証券の発行	5,292,253
米ドル・クラス受益証券の発行	11,343,985
ゴールド円クラス受益証券の買戻し	(378,259,218)
円クラス受益証券の買戻し	(117,629,370)
ゴールド米ドル・クラス受益証券の買戻し	(10,974,575)
米ドル・クラス受益証券の買戻し	(21,532,259)
	<hr/>
	(44,409,119)

当期純資産増加額

292,156,078

期首純資産残高

1,860,809,104

期末純資産残高

2,152,965,182

期末純資産の内訳：

ゴールド円クラス	1,304,359,568
ゴールド米ドル・クラス	29,495,476
円クラス	624,445,450
米ドル・クラス	194,664,688
	<hr/>
	2,152,965,182

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・グリーンCジャパン
貸借対照表

2021年12月31日現在

(単位：日本円)

	注記	
資産		
マスターファンドへの投資（公正価値）	2(c), 3	378,238,885
その他の資産		1,274,456
		379,513,341
負債		
銀行当座貸越		36,984
未払金及び未払費用	5, 8, 10	847,738
		884,722
純資産		378,628,619

	米ドル	円
円クラス受益証券1口当たり純資産：		
発行済2,758,361口に基づく（単位：日本円）	—	82.54
米ドル・クラス受益証券1口当たり純資産：		
発行済1,550,687口に基づく（単位：米ドル）	0.85	108.98

添付の注記並びにスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・マスターの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・グリーンCジャパン
損益計算書

2021年12月31日に終了した年度

(単位：日本円)

	注記	
マスターファンドから配分された正味投資損失		
受取利子		36,740
費用		(28,436,181)
		(28,399,441)
サブファンドの費用		
代行協会員報酬	8	398,543
受託会社報酬	9	1,209,827
事務管理報酬	10	1,099,524
専門家報酬		508,720
管理報酬	5	398,478
支払利息		12
その他費用		1,345,676
		4,960,780
正味投資損失		(33,360,221)
サブファンドの外貨に係る実現利益及び未実現損失の変動		
外貨に係る正味実現利益		205,736
外貨に係る未実現損失の変動		(177,245)
		28,491
マスターファンドから配分された投資及び外貨に係る 正味実現及び未実現利益の変動		
投資及び外貨に係る正味実現利益		70,150,782
投資及び外貨に係る未実現利益の変動		11,994,085
		82,144,867
営業活動から生じた純資産の正味増加額		48,813,137

添付の注記並びにスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・マスターの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・グリーンCジャパン
純資産変動計算書

2021年12月31日に終了した年度

(単位：日本円)

営業活動

正味投資損失	(33,360,221)
投資及び外貨に係る正味実現利益	70,356,518
投資及び外貨に係る未実現利益の変動	11,816,840
	<u>48,813,137</u>

資本取引

円クラス受益証券の買戻し	(37,753,503)
米ドル・クラス受益証券の買戻し	(9,964,008)
	<u>(47,717,511)</u>

当期純資産増加額

1,095,626

期首純資産残高

377,532,993

期末純資産残高

378,628,619

期末純資産の内訳：

円クラス	227,676,779
米ドル・クラス	150,951,840
	<u><u>378,628,619</u></u>

添付の注記並びにスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・マスターの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパン・スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システマティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ・ジャパン」）
 貸借対照表

2021年12月31日現在

（単位：日本円）

	注記	
資産		
マスターファンドへの投資	2(c), 3	422, 273, 905
マスターファンドからの未収金	2(m)	6, 207
現金		15, 233, 665
外貨建て現金（原価：7, 187, 192円）		7, 369, 258
その他資産		1, 274, 456
		446, 157, 491
負債		
前受申込金		8, 200, 000
投資有価証券に係る支払		5, 060, 150
未払買戻金		729, 991
未払金及び未払費用	5, 8, 10	758, 133
		14, 748, 274
純資産		431, 409, 217
ゴールド円クラス受益証券1口当たり純資産		
発行済3, 207, 858口に基づく		
（単位：日本円）		76.18円
円ヘッジ有クラス受益証券1口当たり純資産		
発行済3, 936, 412口に基づく		
（単位：日本円）		47.51円

添付の注記並びにスーパーファンドSPC（旧称「スーパーファンド・ブルーSPC」）の財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システマティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ・ジャパン」）
損益計算書

2021年12月31日に終了した年度

（単位：日本円）

	注記	
マスターファンドから配分された正味投資損失費用		(5, 680, 190)
		(5, 680, 190)
サブファンドの収益		
その他の収益		—
		—
サブファンドの費用		
受託会社報酬	9	1, 209, 827
代行協会員報酬	8	289, 245
事務管理報酬	10	1, 109, 712
専門家報酬		335, 790
管理報酬	5	289, 182
販売報酬		1, 735, 438
その他の費用		1, 745, 894
		6, 715, 088
正味投資損失		(12, 395, 278)
サブファンドの外貨に係る実現損失及び未実現利益の変動		
外貨に係る正味実現損失		(269, 949)
外貨に係る未実現利益の変動		226, 388
		(43, 561)
マスターファンドから配分された投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動		
投資及び外貨に係る正味実現利益		44, 342, 424
投資及び外貨に係る未実現利益の変動		6, 887, 496
		51, 229, 920
営業活動から生じた純資産の正味増加額		38, 791, 081

添付の注記並びにスーパーファンドSPC（旧称「スーパーファンド・ブルーSPC」）の財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システマティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ・ジャパン」）
純資産変動計算書

2021年12月31日に終了した年度

（単位：日本円）

営業活動

正味投資損失	(12,395,278)
投資及び外貨に係る正味実現利益	44,072,475
投資及び外貨に係る未実現利益の変動	7,113,884
	<hr/>
	38,791,081

資本取引

ゴールド円クラス受益証券の発行	24,000,155
円クラス受益証券の発行	122,200,000
ゴールド円クラス受益証券の買戻し	(1,922,631)
円クラス受益証券の買戻し	(7,657,331)
	<hr/>
	136,620,193

当期純資産増価額

175,411,274

期首純資産残高

255,997,943

期末純資産残高

431,409,217

期末純資産残高の内訳：

ゴールド円クラス	244,379,755
円クラス	187,029,462
	<hr/>
	431,409,217

添付の注記並びにスーパーファンドSPC（旧称「スーパーファンド・ブルーSPC」）の財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・レッド・ジャパン
貸借対照表

2021年12月31日現在

(単位：米ドル)

	注記	米ドル	千円
資産			
マスターファンドへの投資	2(c), 3	7,344,960	941,697
マスターファンドからの未収金	2(m)	32,357	4,148
現金		45,831	5,876
外貨建て現金 (原価：36,693米ドル)		31,862	4,085
その他の資産		11,075	1,420
		<u>7,466,085</u>	<u>957,227</u>
負債			
前受申込金		3,476	446
未払買戻金		32,836	4,210
未払金及び未払費用	5, 8, 10	14,744	1,890
		<u>51,056</u>	<u>6,546</u>
純資産		<u>7,415,029</u>	<u>950,681</u>

添付の注記及びスーパーファンド・レッド・ワンSPCの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・レッド・ジャパン
 貸借対照表（続き）

2021年12月31日現在

（単位：米ドル）

	米ドル	円
シルバー円クラス受益証券1口当たり純資産 発行済1,867,194口に基づく（単位：日本円）	—	70.99
ゴールド円クラス受益証券1口当たり純資産 発行済1,782,762口に基づく（単位：日本円）	—	100.51
円クラス受益証券1口当たり純資産 発行済1,399,086口に基づく（単位：日本円）	—	95.97
ゴールド米ドル・クラス受益証券1口当たり純資産 発行済556,650口に基づく（単位：米ドル）	0.85	108.98
シルバー米ドル・クラス受益証券1口当たり純資産 発行済4,798,230口に基づく（単位：米ドル）	0.60	76.93
米ドル・クラス受益証券1口当たり純資産 発行済222,195口に基づく（単位：米ドル）	0.81	103.85

添付の注記及びスーパーファンド・レッド・ワンSPCの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・レッド・ジャパン
損益計算書

2021年12月31日に終了した年度

(単位：米ドル)

	注記	米ドル	千円
マスターファンドから配分された正味投資損失			
受取利息		1,369	176
費用		(352,970)	(45,254)
		(351,601)	(45,079)
サブファンドの収益			
その他の収益		—	—
		—	—
サブファンドの費用			
受託会社報酬	9	11,000	1,410
代行協会員報酬	8	8,098	1,038
事務管理報酬	10	10,090	1,294
専門家報酬		10,431	1,337
管理報酬	5	8,098	1,038
その他の費用		31,339	4,018
		79,056	10,136
正味投資損失		(430,657)	(55,215)
サブファンドの外貨に係る実現損失及び未実現損失の変動			
外貨に係る正味実現損失		(1,090)	(140)
外貨に係る未実現損失の変動		(2,717)	(348)
		(3,807)	(488)
マスターファンドから配分された投資及び外貨に係る正味実現利益及び未実現損失の変動			
投資及び外貨に係る正味実現利益		45,817	5,874
投資及び外貨に係る未実現損失の変動		(605,559)	(77,639)
		(559,742)	(71,765)
営業活動から生じた純資産の正味減少額		(994,206)	(127,467)

添付の注記及びスーパーファンド・レッド・ワンSPCの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・レッド・ジャパン
純資産変動計算書

2021年12月31日に終了した年度

(単位：米ドル)

	注記	米ドル	千円
営業活動			
正味投資損失		(430, 657)	(55, 215)
投資及び外貨に係る正味実現利益		44, 727	5, 734
投資及び外貨に係る未実現損失の変動		(608, 276)	(77, 987)
		<u>(994, 206)</u>	<u>(127, 467)</u>
資本取引			
シルバー円クラス受益証券の発行		115, 778	14, 844
ゴールド円クラス受益証券の発行		42, 315	5, 425
シルバー米ドル・クラス受益証券の発行		178, 000	22, 821
シルバー円クラス受益証券の買戻し		(20, 241)	(2, 595)
ゴールド円クラス受益証券の買戻し		(131, 423)	(16, 850)
円クラス受益証券の買戻し		(82, 317)	(10, 554)
		<u>102, 112</u>	<u>13, 092</u>
当期純資産減少額		(892, 094)	(114, 375)
期首純資産残高		8, 307, 123	1, 065, 056
期末純資産残高		<u>7, 415, 029</u>	<u>950, 681</u>
期末純資産の内訳：			
シルバー円クラス		1, 151, 937	147, 690
ゴールド円クラス		1, 557, 069	199, 632
円クラス		1, 166, 789	149, 594
ゴールド米ドル・クラス		473, 806	60, 747
シルバー米ドル・クラス		2, 884, 820	369, 863
米ドル・クラス		180, 608	23, 156
		<u>7, 415, 029</u>	<u>950, 681</u>

添付の注記及びスーパーファンド・レッド・ワンSPCの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記

2021年12月31日現在

(単位：日本円及び米ドル)

1. 設立及び主な活動

スーパーファンド・ジャパン（以下、「当信託」という。）は、UBSファンド・サービシズ（ケイマン）リミテッド（以下、「退任受託会社」という。）及びスーパーファンド・ジャパン・トレーディング（ケイマン）リミテッド（以下、「管理会社」という。）の間で締結された信託証書（以下、「信託証書」という。）に従ってケイマン諸島の法律に基づいて設立された。当信託は、信託証書に従ってケイマン諸島の信託法に基づいて2009年6月5日に組織され、2009年6月29日にケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法セクション4（1）（b）に基づいて登録された。当信託の旧名称はスーパーファンド・グリーン・ゴールド・ジャパンであった。当信託の名称は2018年1月1日にスーパーファンド・ジャパンへ変更された。退任・指名・変更証書に従い、2015年5月8日付でハーニーズ・フィデューシャリー（ケイマン）リミテッド（以下、「受託会社」という。）が当信託の受託会社に指名された。受託会社の当信託に関する主な営業拠点はケイマン諸島である。

当信託はオープン・エンド型のアンブレラ・ファンドであり、スーパーファンド・ジャパン サブファンド・グリーン、スーパーファンド・グリーンCジャパン、スーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパン（以下、それぞれ「サブファンド」、及び総称して「サブファンズ」という。）が設定されている。各サブファンドは独立した資産及び負債のプールとして、他のサブファンドと分別して管理されている。

管理会社は当信託の再編を行うことを希望し、2020年12月18日に受託会社は2021年1月1日からの再編を実施することを決議した。

2021年1月1日付で、スーパーファンド・グリーンBジャパンの名称は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンに変更された。スーパーファンド・ジャパン株式会社（以下、「販売会社」）は、2020年12月31日にサブファンド・スーパーファンド・グリーンAジャパンから強制的に償還された。2021年1月1日にスーパーファンド・グリーンAジャパンの受益者はスーパーファンド・グリーンBジャパンの対応するクラスの口数を獲得した。償還後、スーパーファンド・グリーンAジャパンは終了された。

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）は、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCの分別ポートフォリオBに投資している。

スーパーファンド・グリーンCジャパンは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーンSPC（以下、「グリーン・マスターファンド」という。）の分別ポートフォリオCに投資している。

スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーン・ゴールド・マスターSPC（以下、「グリーン・ゴールド・マスターファンド」という。）のスーパーファンド・

グリーン・ゴールド・マスター・分別ポートフォリオに投資している。グリーン・ゴールド・マスターファンドの目的は、テクニカル分析の利用を通じて長期のキャピタル・ゲインを達成することである。グリーン・ゴールド・マスターファンドは、金先物を含む様々な種類の先物契約にその資産を投資しており、金現物にも投資する場合がある。

グリーン・マスターファンド、すなわちスーパーファンド・グリーンSPCは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーン・マスター（以下、「グリーン・アンダーライニング・マスターファンド」という。）に投資している。グリーン・アンダーライニング・マスターファンドの目的は、株式及び証券市場の動きの影響を受けない投資形態として、平均以上の長期的なキャピタル・ゲインを達成するための投資を投資家に提供することである。グリーン・アンダーライニング・マスターファンドは、投資機会及び取引戦略を利用する意向であるため、対象とする先物投資の特性に関する見解を事前に決めているわけではなく、どのような制約も受けることはない。

2021年7月1日付で、スーパーファンド・シャープパリティは、その名称をスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザーへ変更した。

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）は、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンドSPC（旧称「スーパーファンド・ブルーSPC」）（以下、「システムティック・オールウェザー・マスターファンド」という。）の分別ポートフォリオであるシステムティック・オールウェザー・ファンド（旧称：「シャープパリティ」）に投資している。

システムティック・オールウェザー・マスターファンドの主な目的は、先物及び／又は先渡契約のレバレッジ取引を通じて資産増加を達成することである。システムティック・オールウェザー・ファンド分別ポートフォリオは主にロングオンリーのリスクパリティ戦略を採用し、この目的を追求する。この戦略は、スーパーファンドにより独自開発されたコンピューターによる完全自動化トレーディングシステムにより運用される。さらに他の戦略も限られた重みづけで合わせて使用される可能性がある。また、これらの戦略は、先物及び／又は先渡契約を空売りする可能性がある。

スーパーファンド・レッド・ジャパンは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・レッド・ワンSPC（以下、「レッド・マスターファンド」という。）の分別ポートフォリオIIに投資している。

レッド・マスターファンドの目的は、株式及び証券市場の動きの影響を受けない（実質的には、株式、証券及びオプション市場との相関関係に基づくものではない）投資形態として、平均以上の長期的なキャピタル・ゲインを達成するための投資を投資家に提供することである。分別ポートフォリオIの投資目的は、特定のソフトウェアを使用したテクニカル分析を行うことにより、長期のキャピタル・ゲインを達成することである。

グリーン・マスターファンド、システムティック・オールウェザー・マスターファンド及びレッド・マスターファンドを総称して「マスターファンド」という。グリーン・アンダーライニング・マスターファンドは「アンダーライニング・マスターファンド」という。

管理会社は、代行協会員契約に従って、スーパーファンド・ジャパン株式会社（以下、「販売会社」という。）を当信託の日本における代行協会員に選任している。代行協会員は1口当たり純資産価額を公表し、日本証券業協会（以下、「JSDA」という。）に財務諸表を提出する責任を有している。

当信託の年次監査済財務諸表は、日本における開示義務の一環として有価証券報告書及び有価証券届出書に含まれており、関東財務局に提出されている。グリーン・マスターファンド、グリーン・アンダーライニング・マスターファンド、システマティック・オールウェザー・マスターファンド及びレッド・マスターファンドの財務諸表は本報告書に含まれており、当信託の財務諸表と共に読まれるべきである。

2. 重要な会計方針

当財務諸表は、米国会計基準審議会（以下、「FASB」という。）の会計基準編纂書（以下、「ASC」という。）に詳述される米国で一般に公正妥当と認められる会計原則（以下、「GAAP」という。）に従って作成されている。当信託はGAAPにおける投資会社に該当するため、FASB ASC 946「金融サービス-投資会社」に規定される投資会社向けの会計・報告指針に従っている。

2018年8月、FASBは、ASC 820に記載されている公正価値測定の開示要件を修正する内容のASU 2018-13を公表した。これにより、非公開企業は、レベル3に分類される投資対象について期首・期末残高調整表を提出する必要がなくなった。その代わりに、公正価値階層のレベル3における該当及び非該当の変更時に加え、レベル3に分類される投資対象の購入時にも開示が必要となった。また、ASUにおけるその他の開示要件の一部についても改訂、修正及び撤廃が行われた。この基準は、2019年12月15日以降に開始するすべての年度を対象とする。当信託は、レベル3の投資対象を保有していないため、当期にこの基準を適用しても、財務諸表に大きな影響はなかった。

当信託が適用した重要な会計方針は以下のとおりである。

(a) 見積りの使用

GAAPに準拠した財務諸表の作成にあたって、経営陣は、財務諸表日現在の資産及び負債の報告金額並びに偶発資産及び負債の開示、並びに当報告期間中の収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を行うことが求められている。実際の結果は、それら見積りとは異なる可能性がある。

(b) ファンドへの投資（公正価値）

投資ファンドへの投資は、その純資産価額（以下、「NAV」という。）で表示されており、投資ファンドの経営陣により報告される。投資ファンドに適用される契約上の買戻し及び流動性に関する条件に基づいて、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）が保有する投資ファンドにおける持分を売却する際には、当該投資ファンドのNAV報告額のうち該当する金額で、当該投資ファンドと共に取引が行われる。ASU-2015-07により、実務上の簡便法としてNAVを用いて投資対象の公正価値を測定し、これらのすべての投資対象を公正価値の階層に分類するための要件が撤廃された。実務上の簡便法としてNAVを用いて算出された2021年12月31日現在の資産額は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）が2,153,284,748円であった。

添付の損益計算書において、投資ファンドへの投資に係る正味実現利益及び未実現利益は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）に対して生じた利息、配当、費用、有価証券の取引に係る実現損益及び未実現損益、並びに投資ファンドからの報酬の持分相当額を含めて計上した。評価には不確実性を伴うため、NAVの見

積もりは、既存の証券市場が存在した場合に使用されると考えられる価値、又は自己売買により得られる可能性のある価値と異なる場合があり、その差異が大きい可能性がある。

(c) マスターファンドの分別ポートフォリオへの投資

マスターファンドの分別ポートフォリオへの投資は、取引日基準で会計処理されている。投資は当初は原価で測定され、当初認識後は公正価値で測定される。公正価値は、当信託に帰属する純資産（マスターファンドの事務管理会社により報告される。）に基づき決定される。投資に係る実現損益及び未実現損益は、損益計算書に計上される。マスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドの投資に関する評価方針は、本報告書に含まれているマスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドの財務諸表注記に記載されている。

(d) 投資収益及び費用

各サブファンドは、期首現在のマスターファンドの分別ポートフォリオの純資産価額に対する持分割合に基づき、マスターファンドの分別ポートフォリオの収益、費用並びに実現損益及び未実現損益の持分相当額を、週次で損益計算書に計上している。また、各サブファンドの収益及び費用についても発生主義で計上している。

(e) 1口当たり純資産価額

1口当たり純資産価額（以下、「1口当たりNAV」という。）は、日本円、米ドル及び金の単位オンズで表示されており、特定のクラスに帰属するサブファンドの純資産価額を、計算時における当該クラスの発行済み受益証券口数で除し、金の単位オンズで表示されている受益証券については、さらに評価日におけるロンドンの金1オンズ当たりの午前決め値で除することで計算される。

(f) 受取利息及び支払利息

受取利息及び支払利息は発生主義で計上されている。

(g) 現金

現金は日本円建て及び外貨建ての要求払いの預金及び利付預金から構成されており、いずれも当初の満期が3ヶ月以内で流動性が高いとみなされている。

(h) 外貨

外貨建て又は外貨で会計処理される資産及び負債は、貸借対照表日現在で適用される為替レートで日本円に換算される。外貨建て取引は取引日の為替レートで日本円に換算される。換算によって生じる実現損益及び未実現損益は、損益計算書に含まれる。当信託は投資に係る為替レートの変動により生じる損益と保有有価証券の市場価格の変動により生じる損益を区別していない。このような変動は、投資及び外貨に係る正味実現損益及び未実現損益に含まれる。

(i) 法人税等

ケイマン諸島では、収益又は利益に対して課税されることはなく、当信託は、税制優遇措置法第6条に従って、2059年6月5日までの期間における将来の収益又は利益に関するすべての現地にお

ける税金を免除する旨の誓約をケイマン諸島の総督より受け取っている。よって、法人税等に関する引当金はこれらの財務諸表に含まれていない。

当信託は、税務調査が実施された場合に、テクニカル・メリットに基づいて容認される可能性が高い（50%超の確率）不特定のタックス・ポジションについてのみ税務便益を認識している。当信託は、すべての主要な税管轄区域におけるすべての税務調査対象年度について分析を行っている。税務調査対象年度とは、各管轄区域の出訴期限法で定義された税務当局による税務調査の対象となりうる年度である。

経営陣は、当信託のタックス・ポジションを分析した結果、未確定のタックス・ポジションに関して、税務費用に係る負債又は税務便益に係る資産を計上する必要はないと判断した。さらに経営陣は、今後12ヶ月の間に未認識の税務便益の合計額が著しく変化する合理的な可能性のあるタックス・ポジションも存在しないと考えている。

(j) 収益及び費用の配分

特定のサブファンドに関連付けることが可能な収益及び費用は、純資産価額の算定において、各サブファンドに配分又は費用計上されている。その他の収益及び費用は、サブファンド間で比例配分されるか、あるいは受託会社の判断により配分されている。

(k) 未払買戻金

受益証券保有者又は当信託の選択により買戻される受益証券は、買戻通知が受理され、買戻金額が決定された時点で未払買戻金に分類される。

(l) ファンドへの投資に関する未収金

未収金は、買戻通知で請求する金額が確定した時点で資産に計上される。一般的に、未払金は、その請求の性質に応じて、対象投資ファンドが当該通知を受領した時点又は会計年度の最終日の時点で発生する場合がある。

(m) マスターファンドからの未収金

マスターファンドからの未収金は、マスターファンドが未払いの買戻金額である。

(n) 前受申込金

前受申込金は申込みの通知を受理し、申込金額を受領した時点で計上されている。

(o) 公正価値による投資の評価 — 定義及び階層

USGAAPは公正価値の階層を規定しており、公正価値を測定する際に用いられる評価手法への入力データの優先順位を、以下に説明される3つのレベルに分類している。

レベル1： 活発な市場における同一資産又は負債について経営陣が入手可能な未調整の相場価格に基づく評価。レベル1の有価証券に対しては、評価調整及び大量保有による割引価値の利用は適用されない。評価は活発な市場において容易にかつ定期的に入手可能な相場価格に基づいているため、当該レベルに分類される有価証券の評価につ

いては重要な判断は必要とされない。

レベル2： 活発でない市場における相場価格、あるいは重要なデータがすべて直接又は間接的に観察可能な価格に基づく評価。

レベル3： 公正価値測定の全体に対して重要であるが観察不能なデータに基づく評価。

マスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドが保有する投資の公正価値の階層については、本報告書に含まれているそれぞれの財務諸表の注記に開示されている。

3. 金融商品

市場リスク、信用リスク及び流動性リスク

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）

通常の事業の過程において、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）は、市場リスク、信用リスク及び流動性リスクを招く可能性のある様々な金融商品を売買しており、そのリスクの金額は、財務諸表からは明白ではない。

市場リスクとは、金利、為替レート又は株式及びコモディティ価格の変動が、投資対象ファンド、結果的にスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）が保有しているポジションに影響を及ぼすリスクである。スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）は、これらのファンドが保有している投資対象を通じて、市場価格で評価されている金融商品に関して市場リスクにさらされている。

信用リスクとは、契約相手が債務不履行に陥るリスクである。信用リスクは、通常、取引所外で金融商品の取引を行う場合に高くなる。これは、取引所外で取引される金融商品の契約相手は、取引所清算機関の履行保証を受けていないためである。

流動性リスクとは、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）が目的を達成するために行う資金調達において困難が生じるリスクである。流動性リスクは、公正価値に近い金額で投資対象を速やかに売却できなかったことにより生じる場合がある。管理会社は、ファンドへの投資に際して、その株式又は受益証券を合理的な期間内に買い戻すための機会を提供するファンドを選んで投資することを目指すものの、買戻しが請求された際に、常に、その請求どおりに買戻し処理を行うのに十分なほど当該投資ファンドの投資対象が流動的であるとの保証はない。流動性が不足すると、受益証券の流動性及び投資価値に影響を及ぼす場合がある。

スーパーファンド・グリーンCジャパン、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパン

スーパーファンド・グリーンCジャパン、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパンのマスターファンドへの投資は、これらを通じて間接的に、マスターファンドの投資対象である金融商品及び市場に関連する多様なリスクにさらされている。

スーパーファンド・グリーンCジャパン、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパンがさらされている金融リスクの種類は、市場リスク、信用リスク及び流動性リスクである。スーパーファンド・グリーンCジャパン、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパンがさらされている金融リスクに関しては、マスターファンドの財務諸表を参照のこと。

マスターファンドが保有する投資に関する詳細（投資を公正価値で測定する際に用いられる市場価格の観察可能性のレベルに関する内訳を含む。）については、本報告書に含まれているマスターファンドの財務諸表の注記2に開示されている。

4. 受益証券保有者資本

	口数
スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン (旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」)	
ゴールド円クラス:	
期首残高	8,894,125
期中の発行	3,108,484
期中の買戻し	(2,732,626)
	9,269,983
スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン (旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」)	
円クラス:	
期首残高	8,253,197
期中の発行	1,008,691
期中の買戻し	(1,468,422)
	7,793,466
スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン (旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」)	
ゴールド米ドル・クラス:	
期首残高	246,919
期中の発行	39,675
期中の買戻し	(87,173)
	199,421

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン (旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」)	口数
米ドル・クラス :	
期首残高	1, 830, 146
期中の発行	114, 455
期中の買戻し	(192, 913)
	1, 751, 688

スーパーファンド・グリーンCジャパン	
円クラス :	
期首残高	3, 221, 030
期中の買戻し	(462, 669)
	2, 758, 361

スーパーファンド・グリーンCジャパン	
米ドル・クラス :	
期首残高	1, 655, 622
期中の買戻し	(104, 935)
	1, 550, 687

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システマティック・ オールウェザー (旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」)	
ゴールド円クラス :	
期首残高	2, 901, 484
期中の発行	333, 385
期中の買戻し	(27, 011)
	3, 207, 858

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システマティック・ オールウェザー (旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」)	
円クラス :	
期首残高	1, 552, 688
期中の発行	2, 561, 089
期中の買戻し	(177, 365)
	3, 936, 412

	口数
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
シルバー円クラス：	
期首残高	1,736,962
期中の発行	157,310
期中の買戻し	(27,078)
	<u>1,867,194</u>
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
ゴールド円クラス：	
期首残高	1,883,574
期中の発行	45,198
期中の買戻し	(146,010)
	<u>1,782,762</u>
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
円クラス：	
期首残高	1,493,336
期中の買戻し	(94,250)
	<u>1,399,086</u>
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
ゴールド米ドル・クラス：	
期首残高	556,650
	<u>556,650</u>
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
シルバー米ドル・クラス：	
期首残高	4,530,528
期中の発行	267,702
	<u>4,798,230</u>
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
米ドル・クラス：	
期首残高	222,195
	<u>222,195</u>

各サブファンドには、最低申込単位が設定されている。スーパーファンド・ジャパン・サブファン
ド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）、スーパーファンド・レッド・ジ

ヤパン及びスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）は、5,000口以上で100口ごとに申込みが可能で、スーパーファンド・グリーンCジャパンは、100,000口以上で100口ごとに申込みが可能である。販売会社は、管理会社と協議のうえ、特定の申込みについてはこれらの条件の全体又は一部を免除することができる。

信託証書に記載されている場合を除き、すべての受益証券は平等であり、ほぼ同等の権利及び条件を有している。

受益証券の申込みには申込手数料が適用される。特定の投資家の申込みに応用される申込手数料は、当該投資家による各シリーズの申込総額（以下、「購入金額」という。）に基づき決定される。各申込みに応用される申込手数料は、購入金額に5.4%（税抜きでは5%）を上限とする料率を乗じた金額である。

受益証券保有者は、通常、当信託の販売会社に書面による事前の通知を提示することにより、毎月最終日付ですべて又は一部の受益証券の買戻しを要求することができる。当該買戻しは、該当月の最終日に決定される受益証券1口当たり純資産価額で行われる。

当初申込みから12ヶ月以内に買戻請求が行われるか、あるいは当信託による強制的な買戻しが行われる場合、管理会社の単独の裁量により、当信託から受益証券保有者に対して、買戻価格の2%の買戻手数料が請求される可能性がある。当該買戻手数料の請求は当信託の利益のために行われる。

管理会社の単独の裁量により認められる場合を除き、受益証券保有者は、いかなる状況においても、買戻後の保有残高が各シリーズにおける最低当初投資額を下回るような一部買戻しを請求することはできない。

5. 管理報酬

当信託の投資活動は、共通支配下に置かれている関連当事者である管理会社により管理されている。投資顧問契約に基づいて、管理会社は、各サブファンドの純資産価額の0.1%（年率）相当の月次管理報酬を後払いで受領している。

2021年12月31日現在の未払金及び未払費用に含まれている未払管理報酬は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）が552,323円、スーパーファンド・グリーンCジャパンが100,956円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）が94,094円、スーパーファンド・レッド・ジャパンが1,908米ドルである。

6. 成功報酬

各サブファンドのレベルで支払われる成功報酬はない。マスターファンドが支払う成功報酬については、本報告書に添付されているマスターファンドの財務諸表注記に開示されている。

7. 販売会社報酬

関連会社であるスーパーファンド・ジャパン株式会社（「販売会社」）はスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）の販売会社として、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）純資産価額の0.6%（年率）相当の報

酬を毎月受領する権利を有している。

2021年12月31日現在、未払金及び未払費用に含まれている未払販売会社報酬は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）の211,982円であり、そのほかのサブファンドについては未払販売会社報酬はない。その他のサブファンドにつきマスターファンドが支払う販売会社報酬については、本報告書に添付されているマスターファンドの財務諸表注記に開示されている。

8. 代行協会員報酬

代行協会員は、各サブファンドの純資産価額の0.1%（年率）相当の報酬を受領する権利を有している。

2021年12月31日現在、未払金及び未払費用に含まれている未払代行協会員報酬は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）が180,153円、スーパーファンド・グリーンCジャパンが32,503円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）が35,331円、スーパーファンド・レッド・ジャパンが620米ドルである。

9. 受託会社報酬

2015年5月8日付で、ハーニーズ・フィデューシャリー（ケイマン）リミテッド（以下、「受託会社」という。）が、当信託の受託会社となった。

信託証書に規定されたとおり、当信託は、各サブファンドにつき年間8,500米ドルの報酬を受託会社に支払うことに合意している。

2021年12月31日に終了した年度において、サブファンドであるスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）、スーパーファンド・グリーンCジャパン、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパンに対する未払受託会社報酬はない。

10. 事務管理報酬

事務管理契約に基づいて、当信託はエイペックス・ファンド・サービシーズ・エス・エー（以下、「当管理会社」という。）に対し、毎月最終評価日において計算された報酬を後払いで支払っており、その金額はスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）が年間12,364米ドル、スーパーファンド・グリーンCジャパンが年間9,997米ドル、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパンが年間10,090米ドルである。

2021年12月31日現在の未払金及び未払費用に含まれている未払事務管理報酬は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）が118,563円、スーパーファンド・グリーンCジャパンが95,869円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー（旧称「スーパーファンド・シャープパリティ」）が0円、スーパーファンド・レッド・ジャパンが0米ドルである。

11. 関連当事者間取引

管理会社及び販売会社は、共通支配下に置かれている関連当事者である。管理会社及び販売会社に支払われる報酬は、独立第三者間条件に基づく交渉により設定されたものではない。

当信託は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）を通じて、スーパーファンドの投資会社グループの一部である対象ファンドへの投資を実行した。管理会社の取締役であるテニソン・ブリッグス（Tennyson Briggs）及びヨセフ・ホルツァー（Josef Holzer）が、対象ファンドの取締役も務めている。2021年12月31日現在、この対象ファンドが保有するスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）の純資産の公正価値は、純資産において102.02%を占める2,153,284,748円である。期中において、その他のスーパーファンドの関連投資会社の売却に係る実現利益は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称「スーパーファンド・グリーンBジャパン」）が119,987,937円であった。

12. 公正価値

2021年12月31日現在、経営陣は、各クラスの金融商品の公正価値を見積るために以下の手法及び仮定を使用した。現金、外貨建て現金、ファンドへの投資に関する未収金、マスターファンドからの未収金、その他の資産、未払買戻金、前受申込金並びに未払金及び未払費用を含む当信託の特定の金融商品に関しては、これらの金融商品が直ちに期日を迎える又は短期的な性質のものであるため、帳簿価額は公正価値に近似している。

公正価値の見積りは、市況及び金融商品に関する情報に基づいて、特定の時点に行われる。これらの見積りは本来主観的なものであり、不確定要因及び重要な判断を伴うため、正確に行えるものではない。仮定の変更により、見積りに重要な影響を及ぼす可能性がある。マスターファンド及びアンダーライング・マスターファンドが保有する投資の公正価値測定のカテゴリに関する情報については、マスターファンド及びアンダーライング・マスターファンドの財務諸表を参照のこと。

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記（続き）

2021年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13. 財務ハイライト

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称：スーパーファンド・グリーンBジャパン）
1株当たりの業績（期中発行済み受益証券1口に関して）⁽¹⁾

期首受益証券1口当たりの純資産価額

投資活動による収入

正味投資損失

投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動

投資活動による利益合計

期末受益証券1口当たり純資産価額

総利回り⁽²⁾

補足情報：

平均純資産比率

営業費用及びその他費用

正味投資損失

(1) 期中平均発行済み口数に基づく。

(2) 各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

	ゴールド円クラス (円)	円クラス (円)
期首受益証券1口当たりの純資産価額	118.95	71.56
投資活動による収入		
正味投資損失	(1.00)	(0.61)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動	22.76	9.17
投資活動による利益合計	21.76	8.56
期末受益証券1口当たり純資産価額	140.71	80.12
総利回り ⁽²⁾	18.29%	11.96%
補足情報：		
平均純資産比率	(0.75)%	(0.76)%
営業費用及びその他費用	(0.75)%	(0.76)%
正味投資損失		

スーパーファンド・ジャパン
財務諸表注記（続き）

2021年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13. 財務ハイライト（続き）

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン（旧称：スーパーファンド・グリーンBジャパン）
（続き）

1株当たりの業績（期中発行済み受益証券に関して）⁽¹⁾

期首受益証券1口当たり純資産価額

投資活動による収入

正味投資損失

投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動

投資活動による利益合計

期末受益証券1口当たり純資産価額

総利回り⁽²⁾

補足情報：

平均純資産比率

営業費用及びその他費用

正味投資損失

(1) 期中平均発行済み口数に基づく。

(2) 各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

ゴールド米ドルクラス (米ドル)	米ドルクラス (米ドル)
1.20	0.96
(0.01)	(0.01)
0.10	0.02
0.09	0.01
1.29	0.97
7.50 %	1.04 %
(0.77) %	(0.75) %
(0.77) %	(0.75) %

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記（続き）

2021年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13. 財務ハイライト（続き）

スーパーファンド・グリーンCジャパン

1株当たりの業績（期中発行済み受益証券1口に関して）⁽¹⁾

期首受益証券1口当たり純資産価額

投資活動による収入

正味投資損失

投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動

投資活動による利益合計

期末受益証券1口当たり純資産価額

総利回り⁽²⁾

補足情報：

平均純資産比率

営業費用及びその他費用

正味投資損失

円クラス (円)	米ドルクラス (米ドル)
72.97	0.83
(7.00)	(0.08)
16.57	0.10
9.57	0.02
82.54	0.85
13.11 %	2.41 %
(8.38) %	(8.36) %
(8.37) %	(8.36) %

(1) 期中平均発行済み口数に基づく。

(2) 各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記（続き）

2021年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13. 財務ハイライト（続き）
 スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー
 （旧称「スーパーファンド・シャープパリティ・ジャパン」）
 1株当たりの業績（期中発行済み受益証券1口に関して）⁽¹⁾

期首受益証券1口当たり純資産価額

ゴールドルクラス (円)	円クラス (円)
65.21	43.03

投資活動による収入

正味投資損失

(2.99)

投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動

13.96

投資活動による利益合計

10.97

期末受益証券1口当たり純資産価額

76.18	47.51
-------	-------

総利回り⁽²⁾

16.82 %	10.41 %
---------	---------

補足情報：

平均純資産比率

営業費用及びその他費用

(4.35) %

正味投資損失

(4.35) %

(1) 期中平均発行済み口数に基づく。

(2) 各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記（続き）

2021年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13. 財務ハイライト（続き）

スーパーファンド・レッド・ジャパン

1株当たりの業績（期中発行済み受益証券1口に関して）⁽¹⁾

	シルバー円クラス (円)	ゴールド円クラス (円)	円クラス (円)
期首受益証券1口当たり純資産価額	75.82	98.26	89.39
投資活動による収入	(4.11)	(5.27)	(5.07)
正味投資損失	(0.72)	7.52	11.65
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現（損失）／利益の変動	(4.83)	2.25	6.58
投資活動による（損失）／利益合計			
期末受益証券1口当たり純資産価額	70.99	100.51	95.97
総利回り ⁽²⁾	(6.37)%	2.29%	7.36%
補足情報：			
平均純資産比率	(5.36)%	(5.32)%	(5.32)%
営業費用及びその他費用	(5.34)%	(5.30)%	(5.30)%
正味投資損失			

(1) 期中平均発行済み口数に基づく。

(2) 各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記（続き）

2021年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13. 財務ハイライト（続き）
 スーパーファンド・レッド・ジャパン（続き）
 1株当たりの業績（期中発行済み受益証券1口に関して）⁽¹⁾

	ゴールド米ドルクラス (米ドル)	シルバー米ドルクラス (米ドル)	米ドルクラス (米ドル)
期首受益証券1口当たり純資産価額	0.93	0.72	0.84
投資活動による収入			
正味投資損失	(0.05)	(0.04)	(0.04)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現（損失）／利益の変動	(0.03)	(0.08)	0.01
投資活動による損失合計	(0.08)	(0.12)	(0.03)
期末受益証券1口当たり純資産価額	0.85	0.60	0.81
総利回り ⁽²⁾	(8.60)%	(16.67)%	(3.57)%
補足情報：			
平均純資産比率			
営業費用及びその他費用	(5.30)%	(5.33)%	(5.31)%
正味投資損失	(5.29)%	(5.31)%	(5.29)%

(1) 期中平均発行済み口数に基づく。

(2) 各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記（続き）

2021年12月31日現在

（単位：日本円及び米ドル）

14. 重大な出来事

2021年1月1日付で、スーパーファンド・グリーンBジャパンの名称がスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンへと変更し、また、2021年7月1日付でスーパーファンド・シャープパリティの名称をスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザーへと変更した。

15. 後発事象

これらの財務諸表を作成するにあたり、経営陣は、当該財務諸表の公表が可能となった2022年6月9日までのすべての重要な後発事象を評価し開示した。

2021年12月31日より後に、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンに対し179,572,349円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザーに対し83,770,000円、スーパーファンド・レッド・ジャパンに対して10,428米ドルの申込みが処理された。

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンに約428,401,655円、スーパーファンド・グリーンC・ジャパンに対し約12,522,982円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザーに対し約5,054,665円、スーパーファンド・レッド・ジャパンに対し、約7,416,597米ドルの買戻しが処理された。

2022年4月1日付で、ナブ・ファンドアドミニストレーション・グループが、当信託の新しい事務管理会社に任命された。

4. 費用の明細

(2021年1月1日～2021年12月31日)

項目	比率又は金額	項目の概要	
管理報酬	当サブファンドの純資産価額の年率0.10%	受託会社、事務管理会社及びカストディアンその他の者との間のやりとり、当サブファンドの活動に関連する契約の管理、申込及び償還を含む投資活動の運用管理の対価	
代行協会員報酬	当サブファンドの純資産価額の年率0.10%	日本の法令及び日本証券業協会の規則に従い、受益者への目論見書や財務書類を送付し、純資産価額を公表する等の業務に対する報酬	
受託会社報酬	当サブファンドにつき年間11,000米ドル	信託証書に従って行う当サブファンドの受託業務に対する報酬	
事務管理会社報酬	当サブファンドの事務管理及び振替代行報酬	当サブファンドにつき年間9,793米ドル	各評価日における純資産価額の計算、受益権者名簿の管理、締結された申込に係る契約及び申込の受領並びに処理、電磁的方法による受益証券の発行証明及び保有報告書の作成並びに送付などの役務の対価
	年次報告書及び監査手配報酬	当サブファンドにつき年間400米ドル	関連する規制に則した年次財務諸表（監査済み）の作成及びその補助の対価
	主たる事務所の提供報酬	「スーパーファンド・ジャパン」につき年間6,000米ドル	当サブファンドの主たる事務所を提供することの対価。事務管理会社の関連会社に支払われる。
その他の費用（当期）	0.56%	監査費用、保管費用、その他信託事務の処理に要する諸費用	

(注1) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額を当サブファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2) 各項目の費用は、サブファンドが組み入れている投資先ファンドの費用を含みません。

5. 当期末における純資産額計算書

(2021年12月31日現在)

サブファンド・レッド	I 資産総額（米ドル（円））	7,466,085 (957,226,758)
	II 負債総額（米ドル（円））	51,056 (6,545,890)
	III 純資産総額（I - II）（米ドル（円））	7,415,029 (950,680,868)
	IV 発行済数量	10,626,117
	V 1単位当たり純資産額（III / IV）（米ドル（円））	0.6978 (89.4664)

6. 投資の対象とする有価証券及びその他の資産

(2021年12月31日現在)

	資産の種類	国名	時価合計 米ドル (円)	投資比率
サブファンド・ レッド	スーパーファンド・レッドワン SPCの株式（クラスジャパンの利益参加シェア）	ケイマン諸島	7,344,960 (941,697,322)	99.06%
	現金、受取債権及びその他の資産 (負債控除後)	該当なし	70,069 (8,983,546)	0.94%
	純資産総額		7,415,029 (950,680,868)	100%

7. 投資の対象とする不動産、金銭債権及び手形

該当ありません。

8. お知らせ

2022年4月1日付で、当サブファンドの事務管理会社が、エイペックス・ファンド・サービス・エスエーから、NAVコンサルティング・インク及びNAVファンド・サービス（ケイマン）リミテッドに変更されました。

以上